



19

大祖神社

祭神は、伊弉諾命、伊弉冉命で、寛喜元（1229）年氏神祭祀の記録があります。康応元（1389）年に祭壇を作り、歴史を刻みつつ修復を重ねてきて、平成16年3月に総改築を行いました。

慶長4（1599）年筑前名島藩、小早川隆景の家臣、岩見重太郎の「ひひ」退治伝説で有名な神社でもあります。



20

奥の院

岩見重太郎「ひひ」退治伝説の場所。蛇宮日の奥の院祭事は、目隠しした神官が日本刀を振りながら後退するという奇祭でした。

蛇宮日の謂れは、康応元（1389）年疫病流行の折、山上の樹上に霊光があり、これを崇め鉾、弓、矢を奉納祈願すると悪疫の流行が治まったといわれています。

以来この神事は700年以上続いていましたが、現在は廃れています。



21

赤地蔵堂

昔、この辺りは下境店屋渡しに通じる街道として栄えていましたが、道の巨石が通行を妨げていました。ある日、通りがかりの屈強な武士が、この巨石を持ち抱え地藏堂の脇側に移し立ち去ったといわれています。後にこの武士が、塙壇右衛門とわかり、巨石を「塙石」と名付け、今に語り継がれています。

地藏堂は、享禄元（1528）年創建、下境光福寺の請け持ちとあります。



22

赤地薬師堂

「正行寺過去帳」によると、境内に三体の薬師如来像があったそうです。明治3（1870）年10月には、正行寺に祀ってあった本尊1体と12体の木仏を当地に移し、翌年6月に薬師堂を再建以後、供養を組内の村人で行って来ました。

老朽が著しいため、平成12年に堂守り宮崎明氏が母堂の供養を兼ねて再建し、今日に至っています。



23

あかぢ駅

明治26（1893）年2月11日、直方・金田間9.9kmの伊田線が開業。赤地へ架かるレンガ橋梁は文化遺産であり、戦後まで石炭輸送で日本経済を支えてきた鉄道でした。

平成2（1990）年10月1日、第3セクター平成ちくほう鉄道として開業し、あかぢ駅もこのときに設置されました。